

蔵書位置検索サービス「ブクロケ」の検討と開発

ネットワークメディアプロジェクト

M0110408 松坂 昂将

研究の背景

大学などの図書館では、蔵書検索システムOPACを使い書籍を検索する。しかし、OPACでは請求番号が得られるだけなので、それを頼りに館内図を見て書架を探すしか手段がなく、書籍の位置を特定することは困難である。そこで、書籍の位置をアプリケーション上の図書館館内図に表示し、発見を補助するサービスを開発することでこの問題を解決する。

研究の目的

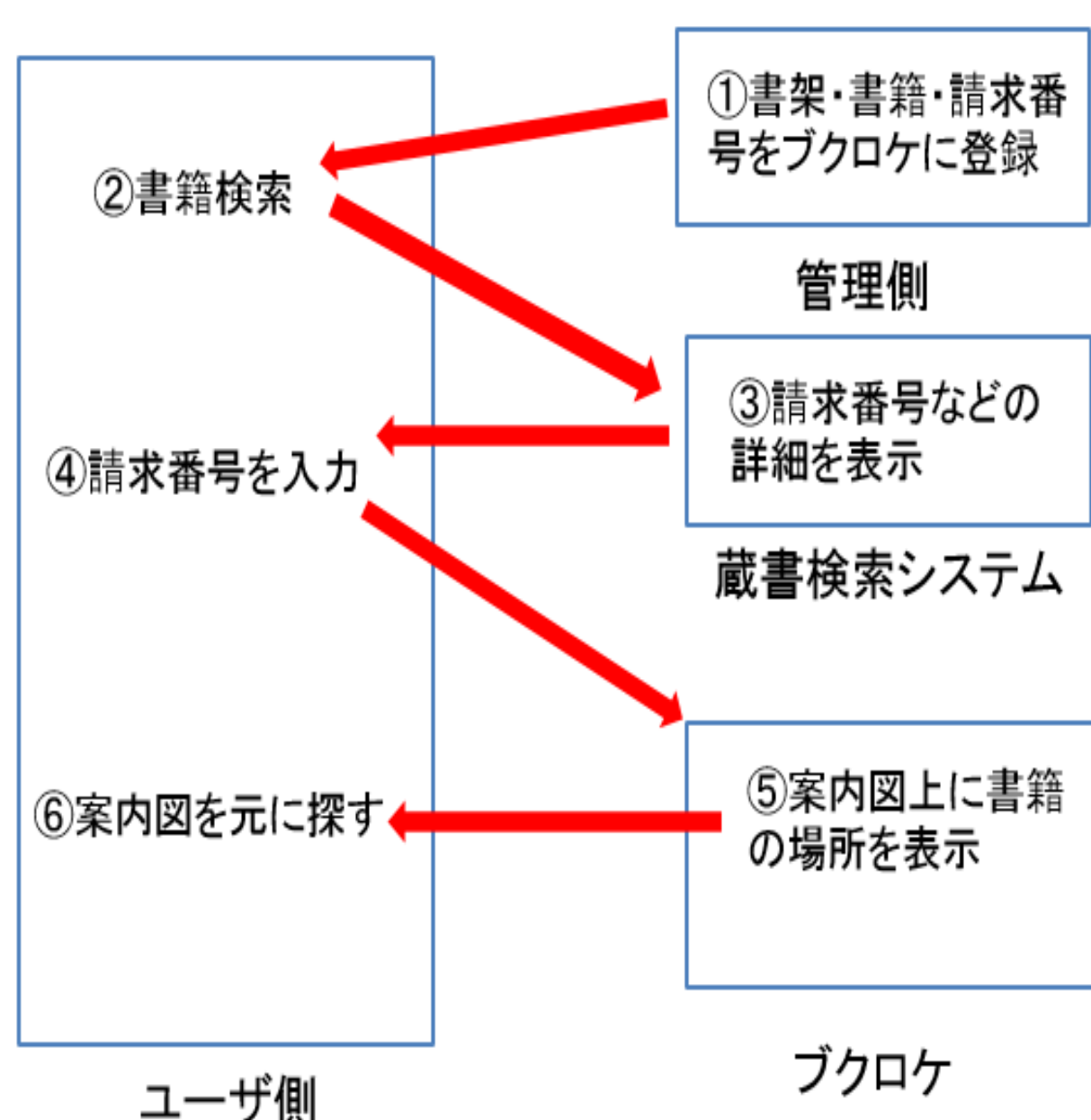
大学の図書館などで目的の書籍が見つげづらいという経験は、図書館利用者には一度くらいあるのではないかと。本研究では、「ブクロケ」を用いて、書籍のファインダビリティの向上を目指し、より簡単に蔵書を見つけられるサービスの開発を目的とする。

ブクロケとは

「ブクロケ」とは、OPACなどから得られた書籍に割り振られている請求番号を利用し、目的の書架がどこにあるのかを目印を用いて示すプラットフォーム蔵書位置検索アプリケーションサービスである。

管理側が、請求番号と書架位置の対応付けデータおよび図書館館内図さえ用意すれば、どのような図書館でも専用のブクロケを作成することができるようになっており、ユーザ側もその専用のブクロケと請求番号がわかれば簡単に利用できる仕組みになっている。

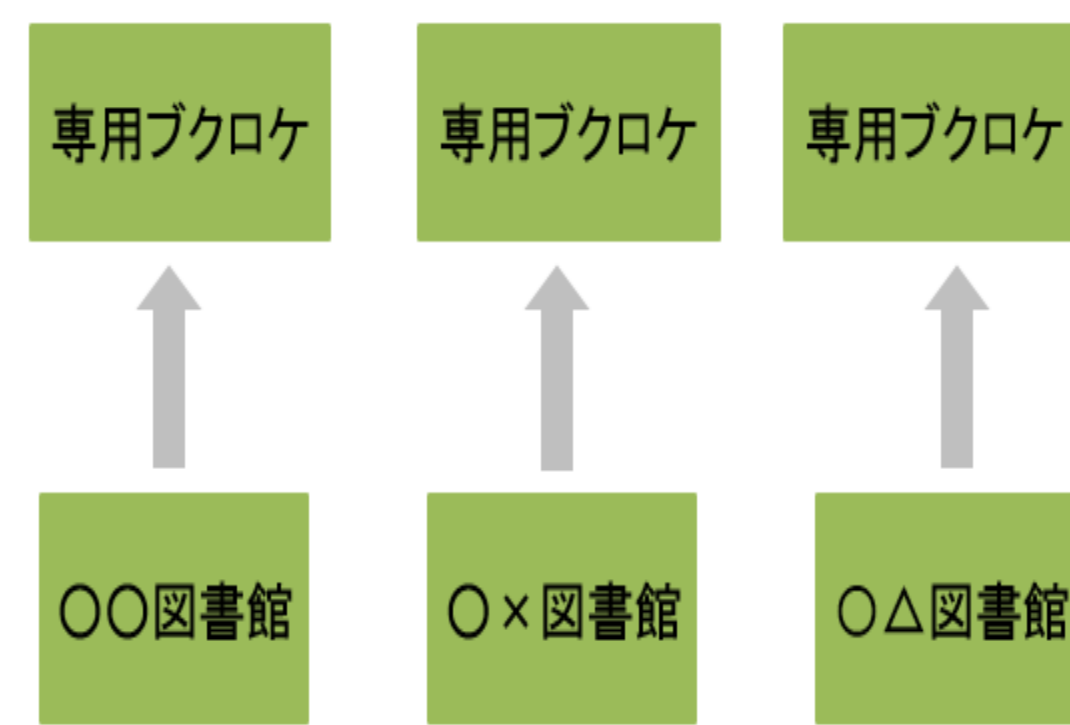
RFIDなどのICカードなどの非接触固体認識技術を使用しなくても出来るのでコストが掛からず手軽にできる。



蔵書位置検索サービス(ブクロケ)の流れ

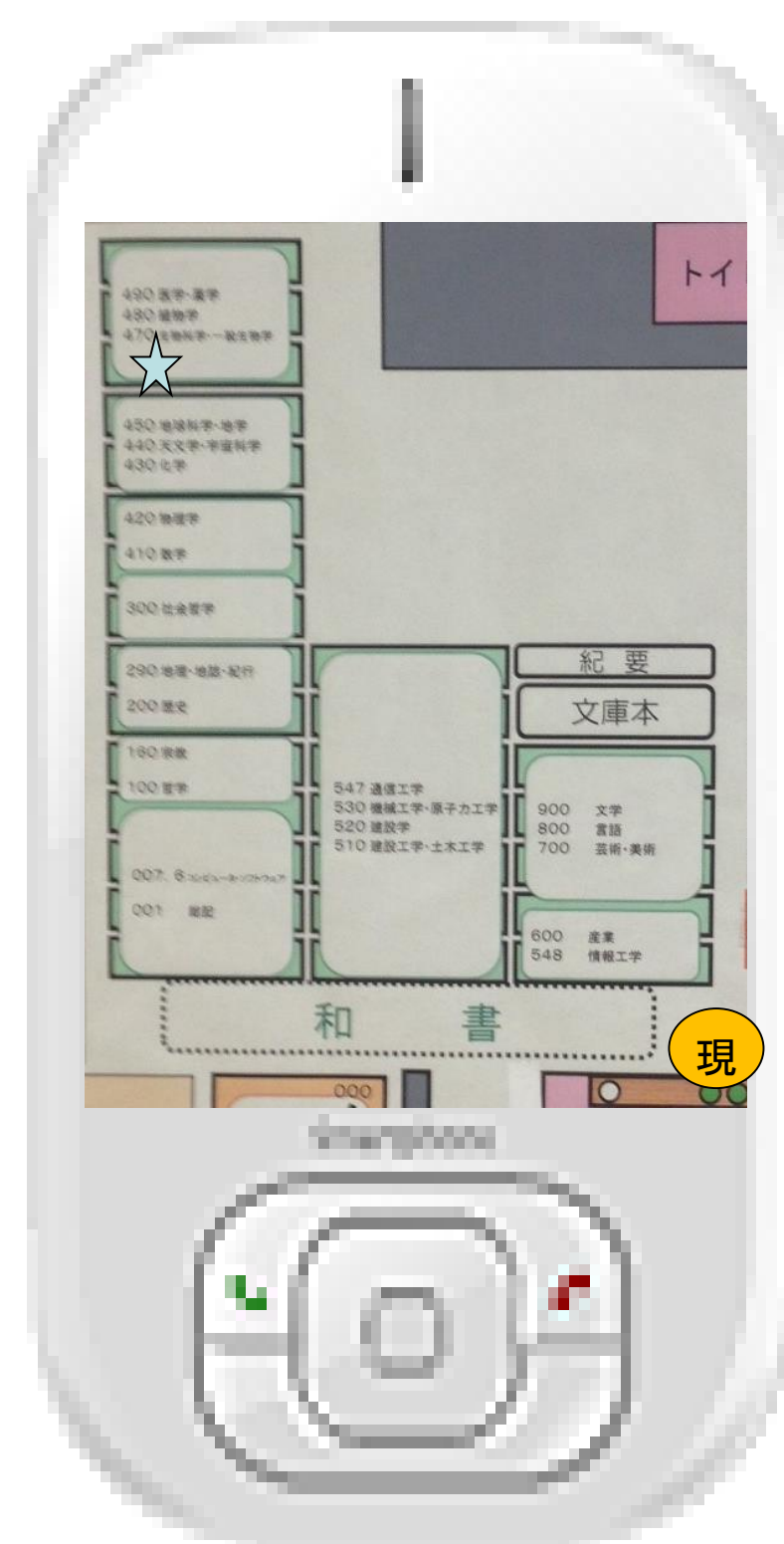
プラットフォーム化

各図書館用にブクロケを個別作成する場合、全国各地に点在している図書館の情報を登録しなくてはならないので、膨大な時間が掛かってしまう。

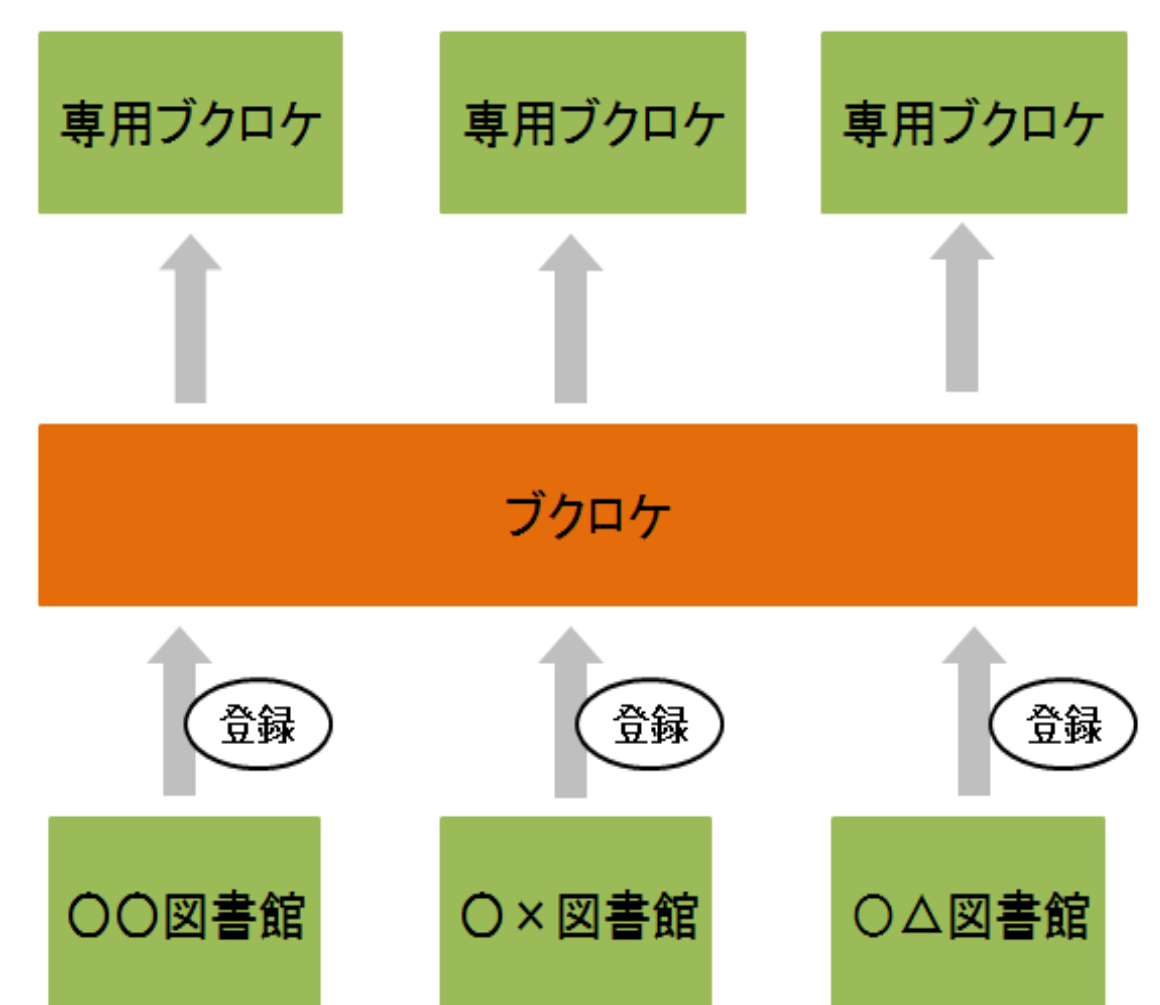


個別作成する場合

この問題を解決するためにブクロケをプラットフォームとして開発することにより、管理者が請求番号とそれに合わせた館内図を登録すれば、容易に専用の蔵書位置検索サービスを作成できるようにする。



完成画面予想図



プラットフォームで作成する場合

本研究の今後の予定

ファインダビリティの向上のために、ブクロケを実際に一般利用者と管理者に分かれて使用してもらい、評価実験を行う。その結果をもとに目的を達成するために必要な機能を随時改良、実装していく予定である。

